

□議員名：藤岡修美

1 中学校の部活動の地域連携、地域移行について

論点	休日の部活動の地域連携・地域移行に向けた本市の取組の状況はどうか。
回答	県の新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針の公表を受け、本市も、文化・スポーツ関係団体、学校関係者、保護者の代表者、行政関係者等で構成する協議会を設置して、市としての方針や体制の整備について検討する。

論点	地域や学校によって状況が異なる中、県が策定した新たな地域クラブ活動の在り方についてどのように考えているか。
回答	多様な形態、受け皿を確保して、子供たちがスポーツや文化・芸術活動に取り組むことができる環境を整備する必要があることから、新たに設置する協議会において、様々な団体や関係者の方々からの意見を基に本市に適した環境の整備に取り組みたい。

論点	新たな地域クラブ活動の運営団体や実施主体についてどのように考えているか。
回答	スポーツ協会や文化協会に加え、これらの団体に加盟する各種団体やチーム、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなどが挙げられる。また、地域で活動している既存のスポーツチームや文化団体も可能であれば実施主体として考えられる。

論点	新たな地域クラブ活動における指導者をどのように確保・育成していくのか。
回答	指導者の確保については、実施主体となるスポーツや芸術・文化団体の指導者のほか、兼職・兼業許可を得た教員など、様々な関係者から確保する必要があると考えている。また、県が指導者を紹介する人材バンクの活用も選択肢の一つであると考えている。

論点	新たな地域クラブ活動の活動場所についてどのように考えている
----	-------------------------------

	か。
回答	受け皿となる実施主体によって、活動場所として中学校の施設を使用する場合もあれば、市の体育施設や他の公共施設を活動の場所とすることも考えられる。活動場所については、今後の関係団体との個別の協議を進める中で確認していく。

論点	本市の中学校の部活動の地域連携、地域移行をどう進めていくのか。
回答	中学生の文化スポーツ活動体制整備協議会を12月に設置し、教育委員会と、文化・スポーツ推進課が事務局となって対応していく。そして、あらゆる方面からの検討を加えて本市にふさわしい地域の部活動の地域移行について協議を進めていく。

2 ふるさと納税の活用によるまちづくりについて

論点	協創によるまちづくり提案事業の募集要項に提案事業の対象となる団体の要件が規定しているか、具体的にはどのような団体が対象となるのか。
回答	3人以上の構成員で組織している団体である、事業を確実に実施するに足りる人員・体制・資金を備えている、団体等の運営に関する定款や規程、会則等を定めている、団体等の予算・決算について適正な会計処理が行われている、以上4つの要件を満たしている団体である。

論点	募集要項に提案事業の対象となる事業が規定されているが、具体的にはどのような事業が対象となるのか。
回答	1本市の総合計画の方向性に沿い、市が進める共創によるまちづくりの趣旨に沿った公益的な事業である、2予算の見積りが適正である、3地域課題社会的課題の解決が図られる事業である、4市民目線からのまちづくりのアイデアや工夫があり、持続性のある事業である、以上の全てを満たす事業が対象となる。

論点	今年度の提案事業の実施状況はどうか。
----	--------------------

回答	2つの事業を採択し、クラウドファンディングを実施した。一つは文化協会が実施した北九州グランフィルハーモニー管弦楽団の演奏会と、もう一つは全国生涯学習音楽指導員協議会山口支部が実施した参加型コンサートである。
----	---

論点	今年度の提案事業の実施状況を踏まえ、協創によるまちづくり提案事業をこれからも継続していくためにどのような課題があるか。
回答	今年度から開始したこともあり、事業の目的やクラウドファンディングの仕組みなどについて、十分な周知やPRが不足していた。今後、二つの団体から提出される完了報告を受け、より効果的な協創によるまちづくりの推進となるよう制度の見直しを図る。

論点	将来、このコンサートを聞いた山口東京理科大学の学生や、成長して本市を離れた子供たちが社会人となり、全国からこのクラウドファンディングに参加して、この事業が続くことが理想だと考えるが、市長はどう思うか。
回答	いろいろな課題があることは確認しているが、実施された二つの事業は大変内容がすばらしく、この事業がよりよいものになるように課題を整理して進めていきたい。